

保育 おおさか

平成17年1月1日 第353号

大阪府社会福祉協議会・保育部会

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426



はばたけ 健やかに



申（去る）
年の昨年は台風・地震と自然災害に加えて、子どもたちの悲惨な事

件が相次いで起こり、私たちの心を痛めました。子どもたちを取り巻く環境は虐待も含め、ますます悪くなつていくように思われ、あまり良い年ではなかったようですが、12年前の平成4年の申年はどうだったかと思ひ起こしますと東海道新幹線に「のぞみ」が登場、バルセロナ・オリンピック、毛利さんがエンデバーで宇宙へと、バブル崩壊後の景気の先行き不安もあるものの、昨年のような環境ではなかったようです。

さて、今年はどういう年になるか予想もつきませんが、少なくとも子どもたちにとって未来を見据えた安心した社会、不幸な出来事がない、健やかに育つ環境に、私たち大人たちが見詰め直すことを小さな地域社会からでも発信できるよう、トリ（酉）敢えず願う年にしたいですね。

逆境を飛躍のチャンスに

保育部会長 高岡 國士



昨年の保育界は、民間保育所の運営費が一般財源化されるかどうかで予算編成ギリギリまで大きく揺れた。結果としては、小泉内閣の3年で4兆円の補助金削減の対象からは外れたようである。

保育所運営費が一般財源化されれば、幼保一元化の動きと合わせて現行保育制度の根幹が揺らぐことになるので、一安心したところである。

しかし、地方分権化が将来にわたって進められていく政治情勢の中で、全国知事会の要望項目になっていることは、完全に安心できる状況ではない。

それにしても小泉内閣誕生以来、「待機見ゼロ作戦」をはじめとして、保育制度に関わるものが常に政策の課題となってきた。その背後には今の日本が抱えている

る少子化問題、女性の社会進出、育児環境の悪化や官製市場の民間開放などがある。

保育関係者は時代の変化を真剣に受け止めるとともに、新たな期待に積極的に応えていく必要があると考える。

今、保育所に一番求められているのは、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ育つ環境整備への貢献である。国では「新新エン

ゼルプラン」の策定に取り組んでいるところである。

地域の子育て支援事業が児童福祉法に位置付けられ、その実践を市町村に義務付けられたことにより、われわれにはそれへの協力と、

これまで以上に地方自治体との連携と信頼関係を保つことが求められる。

保育所経営を取り巻く環境が一段と厳しくなる中、社会福祉法人は地域福祉への貢献（福祉の一村一品運動）と、「自分の園は自分で守る」という気概で逆境を飛躍のチャンスにしたいものだ。

子どもに夢と希望を

大阪府健康福祉部児童家庭室

室長 藤田 哲士



子どもは、次代を担う社会の宝です。子どもたちが、

多くの人に温かく支えられながら、夢をもって成長することが私たちの願いです。大阪府では、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を今年度中に策定し、子どもを産み・育てること

を躊躇させる様々な課題を軽減するとともに、子どもが夢と希望をもって健やかに成長し、自立した個人として生きていくことができない環境づくりをすすめたいと考えております。

国においても、子育て世代の働き方や若者自立策にも対策を広げた「新エンゼルプラン」に代わる新たなプラン」を16年中に策定することとしています。

きな改革の中、保育所は地域と連携して、子育て家庭への支援を行う貴重な社会資源として期待されています。府としては、「子どもが大切にされ、健やかに心豊かに成長できる社会づくり」、「安心して、喜びをもって子どもを生み、育てることができる社会づくり」に保育所や地域・家庭とともに全力で取り組んでいきたいと考えております。

信頼される専門職として

保育士会長 武内 茂子



保育園では散歩に出るた

び周りに目をむけ、自らの園周辺の探索を楽しむことができます。体を使い足を

使い頭も使う子に育ち、危険を自ら知り、危ないところへは行かないことなどを

学んでほしいものです。そんな中、子育てを支援する保育士の責務として研鑽の重要性が問われ、各々がより積極的意欲をもつべき時がきています。

意見交換会

ブロック活動の支援強化を図るため、12月21日（火）、ホテル日航大阪で、正福部会長・常任委員・ブロック役員と行政を交え、意見交換会を開催した。

高岡

部会長から、中央情勢について、活発な意見交換がなされた。

意見交換会終了後の懇親会においても、引き続き熱心な議論が交わされた。



河内ブロック会

西岡 成典

国から地方へと大きい流れの中、しっかりと基盤を固めていく一年であると思っています。

昨年は子どもたちにとっては、とても事件も多く受難の年であったと思います。私たちも子どもを安全に守る、という事に親御さん同様、大きな不安を抱える時代になりました。将来、国を支えていく子どもたちが心の大切なものをしっかりと乳幼児時期に育み、良識ある人として育つことを、これほどまでに願ひ、また、責任の重さを感じることが、これまでにあったでしょうか。

東大阪市の17年4月より中核市に移行します。現在のその作業の真つ最中です。待機児童の解消、補助金の問題など課題は山積です。



頌春

ブロックからの年賀状



泉州民間保育協議会

田中正清

国も、府も、市も財政難で、地方分権の目玉である三位一体改革もなにやら赤字の押し付け合いのようで、少子化対策も次世代育成支援も戦後最多上陸を記録した台風とともに飛んでいってしまいそうな気配であります。

10年ほど前、私どもの園児たちにお言葉をかけていただいた紀宮さまのご結婚が決まりました。早くお子様を授けられることを願っております。

今年も厳しい風が吹きそろうですが、泉州ブロックは持ち前の団結力で立ち向つ

てはいても、政治家さん、お役人さん、もう少し真剣に子どもたち（保育園？）のことを考えてくださいな

そんな中、東大阪私立保育会として会の先生達が力を合わせ、子どもたちの育ち、

北大阪ブロック会

濱田 晋

「なぞの波風の立ちさわぐらん」

毎年保育園の基本的な経営や将来に不安を残すような諸問題が出てきます。よく考えてみると国なりの基本方針がその時々でグラグラしているためと考えられます。決まったと思ってい

る問題が、またぞろ毎年出てきます。財政事情もわかりますが、今や少子化

貢献を忘れないようにしましょう。

南大阪ブロック民間保育園連盟

宮武 勲

七市一町一村で構成する当ブロックは、地域によって入所児童、待機児童の多少はあるものの、16年度も平穏な状況の中で推奨しています。

しかしながら、今後ますます進行する少子化に先行きの不透明感は拭えません。来年度は運営費の一般財源化は一応避けられました。が、近い将来予定されたものとなるかもしれません。自治体の財政、方向によ

し、平成17年度からは、保育時間や休園日など、公立保育所と足並みを揃えてゆく予定。

北摂ブロック保育部会

熊井 茂治

昨年は、三位一体改革で運営費の削減を地方六団体から提示されたものの回避されましたが、近い将来削減されるものと受け取っておかなければならないと思います。

西年を迎えたいま、定見を持たずに大勢の動向に順応する風見鶏ではなく、乱

